

高めよう防災意識

■地すべり

やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く。

前兆現象

斜面に割れ目が見える、水が湧き出る。家屋などの構造物に亀裂が入った。



土砂災害の前兆現象を感じたら速やかに避難しましょう
典型的な土砂災害の種類として、がけ崩れ、土石流、地すべりの3種類があります。それぞれの災害が発生する際には、次の前兆現象が起る場合があります。それらの現象を見たり、聞いたりしたら、速やかに避難をしましょう。

- 赤色（警戒）：2時間先までに警報基準に到達すると予想
- 薄紫色（非常に危険）：2時間先までに土砂災害警戒情報の基準に到達すると予想
- 濃紫色（極めて危険）：すでに土砂災害警戒情報の基準に到達

■土石流

山から崩れた土や石が、水と一緒に、ものすごい勢いで流れ下ってくる。

前兆現象

土や木の葉が腐ったような異様なにおい。雨が降り続けているのに川の水位が下がる。普段聞かれない山鳴り。川の流れに流木が混ざる。



■がけ崩れ

急な斜面が崩れ落ちる。

前兆現象

斜面に割れ目が見える、水が湧き出る。小石がパラパラ落ちてくる、樹木の根が切れるなどの音。



◆土砂災害に対する避難勧告等の判断の目安

町で定めている、土砂災害の危険度に対する避難勧告等の主な判断の目安は、以下のとおりです。
なお、警戒レベルは、5段階のレベル分けで危険度を分かりやすく示し、災害発生時に早期避難など命を守る最善の行動をとるよう促すためのものです。

警戒レベル	皆さんに行動を促す情報	発令の判断の目安	皆さんがとる行動
5	災害発生情報	土砂災害が発生した場合	既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をする。
4	避難指示（緊急）	土砂災害警戒情報が発表され、メッシュ情報が【濃紫色】※山鳴り、流木の流出が発生したとき	速やかに避難をする。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内の斜面から反対側の2階などに避難する。
	避難勧告	土砂災害警戒情報が発表され、メッシュ情報が【薄紫色】※土砂災害の前兆現象があるとき	
3	避難準備・高齢者等避難開始	大雨警報（土砂災害）が発表され、メッシュ情報が【赤色】※	高齢者等の避難に時間を要する人とその支援者は避難する。その他の人は、避難の準備をする。

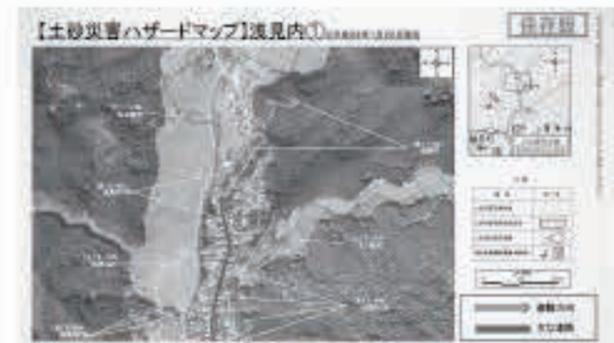
※さらに降雨が継続する見込みがある場合で、避難勧告等は「メッシュ情報」で危険が高まっている地区に対して発令が検討されます。

お問い合わせ 町住民生活課 (☎852・5112)



平成30年5月に発生した豪雨災害時の岩野町内の様子。がけ崩れが発生し、土砂や木が斜面を滑り落ちました。

本町でも、大雨や台風が心配される季節になりました。昨年度は、大雨警報が発令されることは比較的少なく、洪水による被害もありませんでしたが、平成29・30年度に相次いだ洪水、土砂災害の被害を超えるような災害がいつ発生するか分かりません。
このコーナーでは、住民の皆様にご紹介していきます。



町が作成した土砂災害ハザードマップを見ながら、地域の危険な箇所を確認しましょう。

皆さんの住む場所は、土砂災害の危険がありますか？
土砂災害の危険がある場所は、県が土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定しています。該当する区域がある町内へは、町が作成した土砂災害ハザードマップを配付しており、ハザードマップは町ホームページからも確認できます。
また、土砂災害警戒区域のある町内の公民館や地区公民館などには、県が土砂災害ハザードマップの看板を設置しています。
自宅が土砂災害警戒区域にある方は、町から土砂災害に関する避難勧告等が発令された場合は、避難が必要です。自宅の場所の危険性について、今一度確認をしましょう。

- 1 大雨警報（土砂災害）**
重大な災害が発生する恐れのあるときに、「大雨注意報」から切り替えて警戒を呼びかける予報です。
 - 2 土砂災害警戒情報**
命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、大雨警報（土砂災害）に積み増しして市町村単位に発表されます。
 - 3 大雨警報（土砂災害）の危険度分布（土砂災害警戒判定メッシュ情報、メッシュ情報とも言いいます）**
土砂災害発生時の危険度の高まりを、地図上で5段階に色分けして示すもので、町域のどこで危険度が高まっているかを確認でき、気象庁のホームページからご覧になります。
- ▼メッシュ情報の色分けと危険度
●色なし：今後の情報に留意
●黄色（注意）：2時間先までに注意報基準に到達すると予想



県が設置している土砂災害ハザードマップの看板

◀気象庁ホームページはこちら

◀町ホームページはこちら